



きれいなお花だね

「子どもたちが夢中になっているプロジェクト活動」

唐突ですが、1階ロビーに毛糸でつくった色とりどり、様々な形の飾りが飾ってあるのをご存知でしょうか。この飾りは、年長さんを中心に、年中さんも一緒になってつくってくれたものです。つくり始めのイメージは氷の結晶です。1月に寒波がやってきた時に水が氷になることに気づいた子どもたちのイメージがさらに膨らんだ結果があので飾りになっていったのです。

実は、毛糸の氷の結晶ができるまでには、様々な物語がありました。ある年長児が11月のある日、たくさんの落ち葉を持ってきてくれたところから物語が始まっています。それまでも、「落ち葉図鑑」を見たり、「落ち葉のまち」づくりをして楽しむなど、この時期ならではの遊びを楽しんでいました。そこにたくさんの落ち葉をもらったので、「大きな木」をつくらうということになりました。そこで毛糸が登場してきます。普段から、「あやとり」や素材などに使うなど、毛糸は保育材料としていつも用意していましたが、今回は木の枝を本物に見立てるために毛糸を巻いていったのです。そして、今度は落ち葉が足りない。手の形が紅葉に似ていることから手形の葉っぱづくりも始まりました。そこには、いつの間にか年中さんたちもかわっていました。

また、或る日は、落ち葉をきっかけにたくさんの自然物に興味を持った年長さんが、友だちが持ってきたレモンの葉から匂いがすることに気づき、園庭のキンカンの葉やブドウの葉と匂い比べて、匂いがする葉としない葉があることに気づきます。匂いが薄くなると葉をちぎればまた匂いがすることにも気づきました。

また、或る日は、朝の会で「クリスマスツリー」をつくらうということになり、幹や枝を本物のようにするのは緑の毛糸を撒いたらどうかという意見が出て、園庭で見つけたひょうたんの弦に毛糸をぐるぐる。そして、飾りつけはどうしようかということになり、ドングリや松ぼっくりを使うことに。子どもたちは常に相談をしながら、アイデアを出しながら、イメージを膨らませています。

クリスマスが近くなると、今度は、「大きなクリスマスツリー」づくりに挑戦です。大きな木づくりで考え工夫したことに加え、今度は本物のように立たせることができるのかを考えます。話合いの結果、段ボールでつくらうということになり、出来上がったのがロビーに飾ってあったツリーです。

年が明け、氷点下の寒い日が続いていました。朝、前日の水が朝になると氷になっていることに気づいた年長さんと年中さん。今度は、様々な形の容器に水を張り、飾りになる素材を入れてベランダに置いて帰りました。翌朝、見て見るとピカピカと光るきれいな氷が出来上がっていました。寒いと氷がつくれることに気づいた子どもたち。氷をぶっつけ合うと音がすることにも気づきました。そして、太陽の光にあてると不思議な影ができることも発見しました。

それが、今、ロビーに飾ってある毛糸でできた氷の結晶なのです。すでに子どもたちの頭の中は、氷の結晶から、次のあそびへとアイデアが駆け巡っているものと思います。

ある年長児が落ち葉を拾ってきてくれたことをきっかけに、遊びはどんどん広がっていきました。また、一つ一つのあそびが点ではなく、線でつながり、面に広がってきているのがご理解いただけたのではないかと思います。そして、この豊かな活動の中には、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の中の「思考力の芽生え」や「豊かな感性と表現」、「自然とのかかわり」などがあります。また、年長児、年中児、年少児という異年齢のかかわりには、お兄ちゃん、お姉ちゃんに憧れ、あんなことをやってみたいにつながる「協同性」も見てとれます。

子ども自身が面白い、なぜと感じて始めたことからあそびが生まれ、その中に様々な友だちの「〇〇じゃない？」「〇〇してみよう！」が生まれてくる。そこにブームが起こってくる。これが「プロジェクト活動」であり、プロジェクト活動は、プロジェクトをやろうというのではなく、結果的にプロジェクトになったという活動の展開を言います。

このようにあそびを通して、子どもたちはいろいろなことを学び、小学校就学に向けての力、そして生きる力を育てているのです。

進学・進級まであと僅かです。一日一日を大切にしていきたいと思います。



第二みみょう保育園園長

先日、地域のお花屋さん「松田花店」さんよりたくさんの様々な色のパンジーの花をいただきました。初めて植えるお花に興味津々の子どもたち。多くの子どもたちが集まり、一つずつ丁寧に植えていきます。手のひらよりも大きな根を持ちあげると「ゆっくりゆっくり」「そーっとうえるんだよ」とお友だちとお話しながら慎重に植えて、優しく土をかぶせてあげていました。



それから毎日、交代で「きれいに咲いてるね」「元気にいっぱい咲いてね」とお花に声をかけながら水やりを楽しんでいます。その様子をお花屋さんへ伝えると、またかご一杯のパンジーのお花をいただけることになり、再び貴重な体験をすることができました。

その後、毎日のように園庭のお花の様子を気にするようになり、「まだ咲いてるかな？」と保育者と話す様子が見られます。

きれいな花を見るとき感動が子どもたちの心の育ちを豊かにし、保育者と一緒に水やりをすることがいずれ始まる植物への興味・関心や「おもいやり」の芽につながっていくと思います。また、パンジーのお花の栽培を通して地域とのつながりを感じることができました。コロナ渦ではありますが、できる範囲で今後も地域の方とのかかわりを持ち、子どもたちの育ちにつながる活動ができればと思っています。



119番通報
できますか?



消さないで
あなたの心の
注意の火